

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム生野屋苑		
所在地	山口県下松市生野屋南3丁目2番13号		
電話番号	0 8 3 3 - 4 5 - 0 3 0 4	事業所番号	3590700013
法人名	株式会社八葉会		

訪問調査日	平成 21 年 5 月 19 日	評価確定日	平成 21 年 8 月 19 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人 非常勤 2 人 (常勤換算 7 人)	

(2)建物概要

建物構造	木造プレハブ 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	39,000	円	敷金	無	円
保証金	有	150,000	円	償却の有無	有	2年償却
食費	朝食	500	円	昼食	500	円
	夕食	500	円	おやつ		円
その他の費用	月額	18,000	円			
	内訳	光熱水費 9,000円、管理費 9,000円				

(4)利用者の概要 (5 月 10 日現在)

利用者数	5 名	男性	名	女性	5 名
	要介護 1	2	要介護 4		
	要介護 2	2	要介護 5		
	要介護 3	1	要支援 2		
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療 機 関 名	医科 花岡医院 歯科 ときえだ歯科医院
---------------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	利用者や家族のニーズに応えるため、家族が一番気がかりな重度化や終末期に向けた話し合いを家族会に働きかけて行い、同時に家族との個別懇談を数回開催して、平常時から家族やかかりつけ医との連携を深めておられます。終末期を迎えた利用者を医師が毎日往診され、家族が点滴時の見守り協力などで、ホームで最期まで看取られた方や医療依存度が高く入院された方もおられますが、ホームで出来る限りの終末期の介護を提供されておられます。
(特徴的な取組等)	家庭的な雰囲気です。ゆったりと過ごせるように、朝食は起床時間に合わせて7時半頃から3回、随時食事ができ、10時のティータイムには、利用者の好みの飲み物を用意しておられます。その日の利用者の気持ちや天候にあわせて、近くの市民交流センターに出かけて地域の親子と交流したり、お花見、外食、スーパーなどに気軽に出かけられるよう支援しておられます。利用者は明るい表情で過ごされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	職員会議で検討し、地域密着型サービスとしての理念を新たに作成し、第三者委員を選任したり、重度化や終末期に向けた方針を共有し、事故報告書を活用されるなどの改善に取り組まれています。
(今回の自己評価の取組状況)	全職員に自己評価書を配布し、記入されたものを管理者が取りまとめています。出来上がった自己評価書は、今回の外部評価の結果と合わせて、職員と話し合い、サービスの質の向上に活かす予定です。
(運営推進会議の取組状況)	1年間休止状態であり、本年6月25日から再開予定です。今後は2ヶ月に1回の開催を計画しています。
(家族との連携状況)	年4回発行のホーム便を送付し、毎月請求時には、個々の暮らしぶりの報告を同封して送付されています。緊急の場合は電話で報告しています。毎月窓口支払いを原則にしており、面会時に話し合ったり、意見や要望を聞かれています。家族会もあり、年2回食事会をしています。
(地域との連携状況)	自治会に加入し、今年は班長を引き受けておられます。地域の祭りや小学校・幼稚園の運動会に参加し、生野屋苑祭りは自治会の回覧でお知らせしています。地域交流センターに出かけたり、散歩などで地域の人と交流されています。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員で話し合い、「個性を大切にする(その人に合った対応)、家族・地域との交流、絆(人と人との結びつきを大切にします)」など、地域密着型サービスとして、事業所独自の理念を新たにつくりあげている。		
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	月1回のミーティングで理念について話し合っているが、全職員に地域密着型サービスとしての理念が浸透していない。	○	・理念の共有
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、今年は班長を引き受けている。地域の祭りや、小学校、幼稚園の運動会に参加し、生野屋苑祭りは自治会の回覧でお知らせし、地域の人に参加している。地域交流センターに出かけたり、散歩などで地域の人と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価書の記載依頼をし、3人の職員が記入している。管理者が取りまとめているが、職員との話し合いはまだ行われていない。今回の外部評価の結果と一緒に話し合っ、サービスの質の向上に活かそうとしている。	○	・全職員での自己評価の実施
5 (10)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	1年間休止をしており開催されていない。6月からは2ヶ月に1回の開催予定である。	○	・定期的な開催 ・運営推進会議の活用
6 (11)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護保険課や地域包括支援センターに出向き、相談や指導を受けている。介護相談員の訪問も月1回行われている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回発行のホーム便りや、毎月、請求書に個別の暮らしぶりを同封して送付している。面会時や電話で日々の状況や職員の異動などを報告し、意見や要望を聞いている。家族会もあり連携を深めている。		
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の来訪時に意見や要望を聞き、苦情相談窓口として、ホームの担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤2名を確保し、職員の希望を聞きながら勤務調整をし、急な休みはフリーの管理者が交代している。行事の時は全職員が出勤し柔軟に対応をしている。		
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職者がある時は、1週間の引継ぎ期間を置き、約1ヶ月間は重複勤務をして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。異動は行われていない。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務の一環として参加でき、新人研修などに参加している。研修内容はミーティングの時に報告している。内部研修は、理学療法士による介護講習などを行い、働きながらトレーニングをしている。		
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修を受講したり、市内の同業者と、2ヶ月に1回持ち回りで事例検討会を行なうなど、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
13 (31)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず本人や家族に見学をしてもらい、よく説明をして、希望者が当施設でいいのか考えてもらい、納得をして利用してもらうように心がけている。見学時はお茶を共にし、職員は、自宅やデイサービス、入院中の病院に訪問して、本人が徐々に馴染めるように工夫している。希望者は体験入居も可能にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
14 (32)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	洗濯や掃除は、毎日職員と一緒にし、職員は、利用者におはぎや柏餅の作り方を教えてもらったりしながら、日々の暮らしの中で学び支えあう関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
15 (38)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望を聞き取り個人ノートに記入し、把握が困難な場合は、家族からの情報や表情、動作から把握し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
16 (41)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月ケアカンファレンスを開催し、本人や家族からの思いや希望、担当者の意見を取り入れて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
17 (42)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1回見直しを行い、状態に変化があった場合は、利用者、家族、主治医などの関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
18 (44)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療機関への送迎や付き添い、買い物、ドライブ、自宅に帰り衣替えの手伝い、お墓参り等の支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者と家族の希望のかかりつけ医への受診の支援を行ない、毎月1回協力医の往診もある。家族が受診をするときには、情報を手紙にして医師に渡してもらうようにし、適切な医療が受けれるように支援している。	
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	平常時から家族やかかりつけ医との連携を深めており、重度化した場合等は、早い段階から主治医を含めて家族と相談し、全職員や関係者が方針を共有し、看取りや入院などの支援をしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないようにミーティング等で話し合っているが、管理者が気づいた時はその都度注意をしている。記録物は事務室に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。	
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、起床した順番に朝食ができたり、10時のティータイムには好みの飲み物が用意されるなど、一人ひとりのペースや好みを配慮して、その人らしい暮らしができるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	箸を並べる、片づけ、野菜の下ごしらえ等を職員と一緒にしている。日曜日のみホームで調理をしているので、利用者と一緒に買い物、調理の味付けなどをして、食事が楽しめるように支援している。	
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	希望があれば、毎日、15時30分から17時まで入浴可能であるが、利用者は隔日に入浴している。入浴時間に余裕があり、ゆっくりと入浴出来るように支援している。その日の体調に合わせ、清拭、シャワー、足浴等の支援もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期 待したい 項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの洗濯籠を作り、自分のものは自分でたたむ様にしている。絵を描く、歌を歌う、散歩、調理の下ごしらえ等、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気晴らしが出来るように支援している。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの市民交流センターに月に3回は出かけ子供や地域の人と交流し、ほぼ毎日、買い物、散歩などがあり、希望にそって外出の支援ができるように取り組まれている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ミーティング等で話し合い、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したらブザーが鳴り、国道は交通量があるので職員が同伴している。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティングでヒヤリはっとノートや事故報告書に記載された内容について検討し、事故防止に取り組んでいるが、一人ひとりの状態に応じた事故防止についての取り組みには至っていない。	・一人ひとりに応じた事故防止の検討 ○
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年1回、消防署に依頼して、救急救命法を受講し、応急手当、初期対応についてもミーティングで研修を行っている。	
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の防災訓練に職員2名が参加、年2回ホームでの避難訓練を消防署の協力を得て実施している。ハザードマップの指定地域になっているので、自治会の説明会にも参加し、地域の方の協力が得られるように話し合っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報を個人ファイルに綴じて職員がいつでも確認できるようにしている。薬はその都度手渡しして服用を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアを実施し、歯ブラシや義歯の清掃、保管も支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量を記録し、一人ひとりの状態に応じた食事の支援をしている。法人からの配食で、栄養士によるカロリー計算が適切に行われている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗いを励行している。手すりの消毒は毎日の掃除の中で行われ予防に努めている。インフルエンザの予防接種は、利用者や職員が全員が受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には明るい日差しが差し込み、畳の間、ソファが置かれ思い思いの場所でゆっくり過ごされており、窓の外には樹木や花が見え季節感を感じられ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、鏡台、テレビ、仏壇が持ち込まれ、一人ひとりが居心地良く過ごせるように工夫している。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 生野屋苑
所在地	下松市生野屋南3丁目2番13号
電話番号	(0833)45-0304
開設年月日	平成19年2月1日

【サービスの特徴】

- ・季節の行事に参加している。
- ・家庭的な雰囲気での生活している。
- ・散策コースの環境に恵まれている。

【実施ユニットの概要】 (4月30日現在)

ユニットの名称	1 ユニット				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	5 名		男性	0 名	女性 5 名
	要介護1	2	要介護4		
	要介護2	2	要介護5		
	要介護3	1	要支援2		
年齢構成	平均	84 歳	最低	77 歳	最高 94 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員に自己評価書を配布し、回収。 その資料を元に、管理者が記入
評価確定日	平成21年5月19日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員と話し合い、テーマを決めている。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「絆」 家族、職員、地域の人々等の絆を大切に取組んでいる。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	理念のカードを携帯して自覚を持っている。玄関に掲げ、時折ミーティングで話し合う。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	ミーティングで、ケアの風直しやサービスの変更をし、取組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	○	家族会や推進委員会で話し合っていきたい。
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	散歩の際、畑に来られていたり方と気軽に話しかけ、出来、作物を頂く事がある。回覧板の受け渡し等。○	外、玄関先で話を終えるのでなく、リビング等、室内でお茶を飲みながら談笑出来る様努力したい。
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の一員として、自治会の行事に参加している。小学校、幼稚園の運動会、地域のお祭等に出かけている。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今年、自治会の班長として貢献しているか？の中で、役立つ事があれば積極的に取り組んでいく。○	自治会長、民生委員さんには相談し、役立つ事があれば取り組んでいきたい。○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	〇<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	〇	自己評価については、充分な時間を取って取り組んでいきたい。
10 (5)	〇<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	〇	1年間休止状態であったが6月25日再開を予定している。新に、民生委員、民生委員、子供会長さんの出席を予定している。
11 (6)	〇<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	〇<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	〇<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	〇	苑内研修を講師とお招きし、権利擁護、虐待、介護一般の勉強会を考えたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	〇<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	〇<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	〇<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○<u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 玄関にファイルし、提示している。 運営規程に因っては、壁に掲げている。		
18 (8)	○<u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 家族の来訪の際、話を聞いている。 相談員、第三者委員は、玄関、重要事項に提示している。		
19	○<u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 ミーティング等で、職員の提案を話し合い、反映している。運営者には、管理者が伝えたり、議事録で意見を把握してらっている。		
20 (9)	○<u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 職員の体調不良等、急に欠勤可能な体制は取れる勤務表を作成している。管理者で対応する事もある。職員の勤務希望を聞き、勤務表を作成している。		
21 (10)	○<u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 離職者に対しては、理由を利用者に説明している。 ティタイム時、小さなお別れ会で職員、利用者共々、ケーキを食べたりする。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○<u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 必要に応じて研修に参加している。 研修で学んだ事は、ミーティングで発表し、話し合っている。	○	認知症に関する事例等を元には、院内研修(勉強会)をしていきたい。
23	○<u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 20代(男性、女性各1名) 30代(男性1名)、50代の経験豊かな女性3名、60代(シルバー人材派遣女性1名)スタッフで対応している。		
24 (12)	○<u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 市内のグループホームと交流があり、お互いのホームのイベントに招いたり招かれたりしている。(利用者共に)。又、県の連絡会に参加。市内グループホームの勉強会等に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ミーティング終了後、利用者と共に食事に出かけたり、施設記念日に健康パークにて食事、演劇等、楽しんでいる。節食を2日続きの休みで組む事もある。	〇	常に利用者と共に行動している為、職場から離れ、親睦が持てる工夫を考えた。
26	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。			
27	〇職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	介護相談員からお聞きしたり、本人から聴き取ったりした事で、市の介護課に相談する事もある。		
29	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入苑時、不安に思われる事や、要求を聴き、お答えしている。又、家族会で話している。		
30	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入苑の際、特別養護老人ホーム（ユニット型等）のお話、説明をし、家族の方が申し込まれる事もある。		
31 (13)	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	希望に依り、2泊3日の体験をさせ、本人の納得で入苑して頂いたり、入苑前に、お茶や飲みに来て頂いて他利用者と話を頂く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として、接する事もあり、調理に肉づき等、学ぶ事が多い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	〇本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	一日の過ごし方を検討したり。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月	月に一度、ケアカンファレンスをしている。スタッフの意見を導入し、ケアプランの作成をしている。家族の訪問時に意見、要望を聞いている。
42 (17)	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎	に見直しているが、その間、けが、病気(入院)等、変化があった時は家族と話し合い、再検討している。
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人	ノートに日々の生活記録を残している。月一度のケアの話し合いで統一した介護をしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医院	の受診を兼ねて、受診後、買い物や、自宅に帰り、衣類の交換、家の状況を見て戻られる利用者も居られる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年2回	の避難訓練もあり、消防署の方は、訓練がわかる様に思える。自治会の方々には協力して頂いている。
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	中学校1年生	の福祉実習、2級ヘルパー実習研修の受け入れや、見学等、地域への開放は行っている。
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ケアマネジャー	さん訪問時、入所の開き状況をお話しする機会はある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	看護師が常時対応出来る体制が取れる様、努力しているが人材確保がむづかしい。
52	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	〇“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	〇	あと家族とのかかわりで、外出する楽しみがある様、家族に協力を求めたい。
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年3回の家族会の際、昼食を共にしたり、地域交流納涼祭に家族の参加がある。	〇	ぶどう狩り方、家族に呼びかけ、家族の参加を増やしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27) 〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束（スピーチロックやドラッグロック）を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束、抑制等 ない生活をしている。		
75 (28) 〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中リビングで過ごされる時間が多く、見守り出来ている。居室で休んでいる利用者さんは、見まわつ様子をみている。夜間は2時間毎に巡視をしている。		
76 〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中鍵をかけず生活している。センサーで玄関の開閉を察知し、外に出られた場合、足を散策して室内に入る様にしている。		
77 〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミ、爪切り等、自分で出来る利用者の方は、居室に持っておられる。（スタッフ把握している）。管理出来ない利用者さんは状態に応じてスタッフが対応している。		
78 (29) 〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティングにて、ヒヤリハットノートに基づき、話し合いをし、ケアプランに取り入れている。		
79 (30) 〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1度消防署に依頼し、救急救命法を受講している。	〇	ミーティング等で定期的に練習する様にしている。
80 〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故が発生した場合、臨時ミーティングを開き検討している。連絡帳で全スタッフが把握し、改善に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取 組んでい きたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 駐車場も広く、玄関を開放している為気軽に出入りできると思う。		
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 リビングの窓が広く、見晴らしが良く、季節の変化を感じながら生活出来る。掲示物を季節にあった物にし、季節感を出している。		
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 リビングで皆さん仲良く過ごされている。 リビングのソファで一人居残りの得意な方も居られる。		
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 本人の馴染みのタンス・鏡台・等、自由に持ってきている。仏壇を置かれ、朝夕を合わされる利用者の方も居られる。		
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 冷暖房の温度調節はこまめに行っている。 利用者の方からリビングで過ごされている際は部屋の窓を開け、換気をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。 廊下、トイレに手摺を設置している。	○	浴室の手摺の工夫が必要
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 一人ひとりの特技を活かし、自立支援をしている。		
97	〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 外で運動会、納涼祭の出来る空間があり、畑で野菜の収穫が出来る。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない